

クリアリーダープラス 取扱説明書

輸入販売元
株式会社システムギアビジョン

2018年10月版

2 ページ。

目次。

1. はじめに。 5 ページ。
 - 1.1 本取扱説明書について。 6 ページ。
 - 1.2 内容物。 6 ページ。
2. 本機について。 7 ページ。
 - 2.1 本機の概要。 7 ページ。
 - 2.2 各部の呼称および機能の説明。 8 ページ。
 - 2.3 ボタンの説明。 11 ページ。
 - 2.4 接続端子。 12 ページ。
3. 使ってみましょう。 14 ページ。
 - 3.1 初めて本機を使う場合。 14 ページ。
 - 3.2 カメラアームを起こす。 14 ページ。
 - 3.3 読み取り範囲内に原稿をセットする。 14 ページ。
 - 3.4 電源を入れる。 15 ページ。
 - 3.5 原稿を読み取り、再生する。 15 ページ。
 - 3.6 待機モード。 16 ページ。
 - 3.7 電源を切る。 16 ページ。
 - 3.8 罫線のある原稿をテーブルモードで再生する。 17 ページ。
 - 3.9 再生を停止する。 17 ページ。
 - 3.10 音量を調整する。 18 ページ。
 - 3.11 再生速度を調整する。 18 ページ。
 - 3.12 単語単位で再生する。 19 ページ。
 - 3.13 文単位で再生する。 19 ページ。
 - 3.14 ページの先頭に移動する。 20 ページ。
 - 3.15 音声の種類を選ぶ。 20 ページ。
4. 本機のメニュー。 21 ページ。
 - 4.1 メニューの呼び出しと終了。 21 ページ。
 - 4.2 メニューを使う。 21 ページ。
 - 4.2.1 読み取った文書を保存する。 22 ページ。
 - 4.2.2 保存した文書を開く。 24 ページ。

2 ページおわり。

3 ページ。

4.2.3 保存した文書を消去する。 25 ページ。

4.2.4 声の選択。 26 ページ。

4.2.5 モニタを接続しない場合の表示。 26 ページ。

4.2.6 設定。 27 ページ。

4.2.6.1 設定メニューでの声の選択。 27 ページ。

4.2.6.2 オプション。 28 ページ。

4.2.6.3 解像度。 28 ページ。

4.2.6.4 初期設定。 29 ページ。

4.2.6.5 インフォメーション。 29 ページ。

5. パソコンで作成したデータの再生方法。 30 ページ。

5.1 パソコンで作成したデータを記録媒体に入れる。 30 ページ。

5.2 パソコンで作成したデータを再生する。 31 ページ。

6. 充電とバッテリー残量。 32 ページ。

6.1 バッテリー残量の確認。 32 ページ。

6.2 バッテリーの充電方法。 33 ページ。

6.3 バッテリーを長持ちさせるために。 33 ページ。

6.4 バッテリーの交換について。 33 ページ。

7. モニタを接続して使用する。 34 ページ。

7.1 本体裏面のカバーを外す。 34 ページ。

7.2 本体裏面のカバーの中の構造。 35 ページ。

7.3 HDMI ケーブルで本体とモニタを接続する。 35 ページ。

7.4 モニタ接続時のみに有効なメニュー。 35 ページ。

7.4.1 開く。 36 ページ。

7.4.2 モニタを接続した場合の表示。 37 ページ。

7.4.2.1 背景色と文字色の組み合わせを変更する。 37 ページ。

7.4.2.2 表示モードを変更する。 38 ページ。

7.4.2.3 ハイライトを変更する。 39 ページ。

7.4.3 モニタの解像度と本機の解像度を合わせる。 39 ページ。

8. フィーチャーパックを接続して使用する。 40 ページ。

8.1 フィーチャーパックのボタン説明。 40 ページ。

3 ページおわり。

4 ページ。

8.2 フィーチャーパックで拡張される機能。 42 ページ。

9. 故障かなと思ったら。 43 ページ。

10. 安全にご利用いただくために。 46 ページ。

11. 仕様情報。 47 ページ。

12. お問い合わせ窓口。 48 ページ。

5 ページ。

1. はじめに。

この度は、クリアリーダープラス(以下、本機と表記します。)をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機はオランダのオプテレック社が開発した視覚障害者用読書機です。

確認したい原稿をセットして、電源を入れ、スキャンボタンを押すだけで、自動的に原稿を読み取り、原稿の内容を音声で知らせてくれます。

SD カードや USB メモリなどの記録媒体を接続すると、読み取った原稿を保存したり、保存したデータを再生したりすることも可能です。

また、HDMI ケーブルでモニタと接続することで、読み取った原稿をテキスト化して画面に表示できます。ただし、日本語版では『きょうこ』、『おとや』以外の音声では読み上げと画面移動は連動しませんので、予めご了解ください。

モニタに加えて、本機の機能拡張用コントローラーである、フィーチャーパックを接続すると、手元で本機を操作できます。また、モニタに表示されたテキストのサイズ変更、フォントの変更ができます。ただし文字サイズや再生速度によっては、読み上げに対して画面上のテキストの動きが追いつかない場合、操作に対する反応が遅い場合があります。また、パソコンで作成したテキストデータを本機で読み上げる場合、文字サイズによってはモニタにテキストが入りきらない場合、読み上げと画面移動が連動しない場合がありますので、予めご了解ください。

5 ページおわり。

6 ページ。

1.1. 本取扱説明書について。

本機の仕様などは予告なく変更されることがあり、本取扱説明書の内容が最新ではない可能性がありますので、予めご了解ください。ご使用前に本書をお読みいただき、正しく本機をご使用ください。

1.2. 内容物。

本機のパッケージの内容物は以下の通りです。すべて揃っているかご確認ください。

本体。

ACアダプタ。電源ケーブル。

取扱説明書。簡単操作ガイド。メニューツリー説明図。

取扱説明 CD。

クリアリーダープラス 性能確認用サンプル。

製品保証書。

コンパクトフラッシュカード(本体裏面のカバー内に内蔵済み)。

内容物に過不足がありましたら、ご購入いただいた販売店、もしくは 47 ページに記載されているお問い合わせ窓口まで連絡ください。

なお、コンパクトフラッシュカードには本機を動作させるためのプログラムソフトウェアが入っていますので、コンパクトフラッシュカードは絶対に抜かないでください。コンパクトフラッシュカードを抜かれた場合の故障については保証範囲には含まれません。

6 ページおわり。

7 ページ。

2. 本機について。

この章では、本機の特長やボタン、端子について説明します。

2.1 本機の概要。

本機にはバッテリーが内蔵されており、外部電源が無いところでも使用できます。原稿の読み上げ、読み上げ速度の調整、音量調整、音声選択など、基本的な読み上げ機能を使用いただけます。

本体の上面には、ボタンなどのコントロール部分があり、ざらざらした感触のある面が前面、ツルツルした感触の面が背面です。前から見て右側面には電源ボタンや SD カード挿入口、USB メモリ接続端子、イヤホン接続端子があります。本体を背面から見たとき、左下側に AC アダプタの接続端子があります。

本体は約 2.5 キログラムで持ち運び可能な重量です。本体には折り畳み式のハンドルがあります。

原稿の状態や周囲の環境によっては、正確に読み上げができる場合と、できない場合があります。予めご了解願います。上手く読み取りができない場合は、何度か読み取りを行ってください。本体の不具合かどうかを判断するために、本機の性能確認用サンプルが付属されていますので、そのサンプル原稿を正しく読み取るかどうかをお試しください。性能確認用サンプルの読み取らせ方については、44 ページをご参照ください。

7 ページおわり。

8 ページ。

2.2. 各部の呼称および機能の説明。

ここでは本体前面のカメラアームや電源ボタンなどの位置と機能を説明します。

本体前面。

本体前面には、カメラアームとスピーカーがあります。カメラアームには、カメラと照明が付いています。以下でそれぞれについて詳しく説明します。

カメラアーム。

本体、前面の中央部分に、はね上げ式の収納カメラアームがあります。前面中央から下にある凹みを内側に押し込むと、カチッと音がしてカメラアームが立ち上がります。カメラアームを収納するときは、カメラアームをカチッと音がするまで本体側にやさしく押し込んでください。カメラアームを起こした状態で放置すると、衣服などが引っ掛かり、落下や破損の原因になりますので、使用後は必ずカメラアームを閉じて保管してください。

カメラ。

カメラアームを立ち上げると、アームの先にカメラがあります。カメラが汚れると読み取り精度に影響が出ますので、カメラを指で触らないようにしてください。このカメラで、本体の前に置かれた原稿を読み取ります。読み取り範囲については、幅はほぼ本体と同じサイズ、長さは A4 サイズもしくはレターサイズです。

照明。

カメラアームを立ち上げると、アームの先のカメラから少し本体側に、原稿読み取りの際に自動的に点灯する照明があります。照明が汚れたり破損したりすると、読み取り精度に影響が出ますので、照明部分を指で触らないでください。

8 ページおわり。

9 ページ。

内蔵スピーカー。

本体前面のカメラアームを挟んで左右両側には、読み上げ音声が出るスピーカーがあります。

本体上面。

本体上面には、各種操作ボタンと折り畳み式ハンドル、ファイル名を録音する際に使用するマイクがあります。

各種操作ボタン

11 ページの 2.3 ボタンの説明、をご参照ください。

折り畳み式ハンドル。

本体の上部と背面の境目部分には、持ち運びの際に使用するハンドルがあります。本体の背面の上側の中央部分にハンドルを起こすための凹みがあります。ハンドルは本体背面から垂直になるまで起き上がります。

マイク

本体上面の音量調整ダイヤルの左下に円を縁取った突起があります。これは読み取った文書に名前を付けて保存する際に使用するマイクです。録音音量が小さいため、マイクに近づいて録音する必要があります。読み取った文書の保存については、21 ページの 4.2.1 読み取った文書を保存する、をご参照ください。

電源表示灯。

本体上面の右手前部分に電源表示灯があります。電源表示は電源が入ると点灯し、待機モードでは点滅し、電源が切れると消灯します。電源表示灯は本体上部のスピーカーの網の中にあるため、外側からは触って確認することが出来ません。

9 ページおわり。

10 ページ。

本体右側面。

本体右側面には凹み部分があり、その中に電源ボタンや SD カード挿入口、USB メモリ接続端子、イヤホン接続端子があります。接続端子の詳細については、12 ページの 2.4 接続端子、をご参照ください。

電源ボタン。

本体右側面の凹み部分の一番上部にあるボタンです。ボタンを短く押すことで電源を入り切りできます。待機モードから再度本機を立ち上げる場合も、電源ボタンを短く押してください。

本体左側面。

左側面には操作部分や端子はありません。

本体裏面。

本体裏面を正面から見た場合、裏面の左下に凹みがあり、その中に AC アダプタ接続端子があります。

10 ページおわり。

11 ページ。

2.3. ボタンの説明。

本体の上には、右側から大きなダイヤル式の音量調整ダイヤル、音量調整ダイヤルの中央にスキャンボタン、音声調整ダイヤルから約5センチメートル左側に再生速度調整ダイヤル、その左に3個のボタンが連続した横長の塊があります。この3個のボタンは右側が進むボタン、中央が停止再生ボタン、左側が戻るボタンです。以下ではそれぞれのボタンの機能と操作を説明します。

音量調整ダイヤル。

時計回りに回すと音量が大きくなり、反対回りに回すと音量が小さくなります。

スキャンボタン。

原稿を読み取るボタンです。カメラアームを立ち上げた状態で、押すと、ピッ、ピッという作動音がし、カメラのシャッター音が生じて原稿を読み取ります。その後、自動的に読み上げが始まります。

速度調整ダイヤル。

速度を調整するダイヤルです。時計回りに回すと再生速度が速くなり、反対回りに回すと再生速度がおそくなります。

停止再生ボタン。

本体の上面、左側の3個のボタンの中央のボタンです。押すと再生しているデータを「停止」または「再生」します。メニューを開いている場合は、メニューの選択ボタンや決定ボタンとしても使用します。

11 ページおわり。

進むボタン。

本体上面、左側の 3 個のボタンの右端のボタンです。一時停止中に進むボタンを押すと、単語単位で次に進みます。メニューを開いている場合は、項目の選択ボタンとして、次の項目に移動するために使用します。ボタンを 2 秒以上長押しすると、次の文頭に移動します。

戻るボタン

本体上面、左側の 3 個のボタンの左端のボタンです。一時停止中に戻るボタンを押すと、単語単位で前に戻ります。メニューを開いている場合は、項目の選択ボタンとして、前の項目に戻るために使用します。ボタンを 2 秒以上長押しすると、文の頭に戻ります。一時停止中にボタンを 2 秒以上長押しすると、前の文頭に戻ります。

2.4. 接続端子。

本体の右側面および背面の接続端子について説明します。

本体右側面には、縦に細長い凹みがあり、凹みの中の一番上部には電源ボタンがあります。その下に SD カード挿入口、その下に USB メモリ接続端子、その下にイヤホン接続端子があります。本体背面の左下側には AC アダプタ接続端子があります。

SD カードは SDXC、USB メモリは USB2.0 まで対応しています。メモリ容量は 2 テラバイトまで対応しています。

SD カードや USB メモリ等の記録媒体を抜き差しすると、本機から接続音や解除音が出ます。ただし、本体右側面の USB メモリ接続端子については、USB メモリ端子を接続した際や接続を解除した際に挿入音や解除音が出ません。

13 ページ。

また、記録媒体のデータの再生中、保存中、削除中に記録媒体を抜き差しすると、誤動作の原因になりますので、再生中、保存中、削除中には記録媒体を抜き差ししないでください。

13 ページおわり。

3. 使ってみましょう。

この章では本機の基本的な使用方法を説明します。

3.1. 初めて本機を使う場合。

初めて本機を使う場合、まずバッテリーを充電してください。バッテリーを充電するには、AC アダプタを本機の AC アダプタ接続端子に接続し、AC アダプタに電源ケーブルを接続し、電源ケーブルの先をご家庭のコンセントに接続してください。バッテリー残量がない場合、約3時間の充電でフル充電となります。

3.2. カメラアームを起こす。

スピーカーの間にあるカメラアームの先端を、カチッと音が鳴るまで優しく本体側に押し込み指を離すと、カメラアームが起き上がります。カメラアームを再度収納する際は、カチッと音が鳴るまで優しく本体側にカメラアームを押し込んでください。

3.3. 読み取り範囲内に原稿をセットする。

読み取り範囲は、本体の正面から A4 もしくはレターサイズで、読み取り可能な厚みは 8.5 センチメートルまでです。ただし、厚みのある原稿を読み取らせる場合、カメラと原稿の距離が短くなるため、読み取れる範囲はA4サイズよりも狭くなります。原稿の厚みが8.5センチメートルの場合、読み取り範囲は本体側約6センチメートル、左右約4センチメートル、手前側約5センチメートル狭くなります。

本体前面のざらざらしたスピーカーの左右両端の内側が原稿の読み取り範囲です。スピーカーの両端のラインの一番下側に原稿を正しく置くための目印になる小さな突起があるので、そのふたつの目印の間に原稿を置いてください。目印は読み取りの精度に影響しません。ただし、本体と原稿の一番本体に近い文字の距離を1セン

15 ページ。

チメートル程度離してください。本体と文字の距離が近すぎると正しく読み取れない場合があります。

また、原稿が紙1枚の場合、テーブルクロス模様や下に別の原稿があり、それらが透けていると、上手く読み取れない場合があります。原稿の向きは本体側が上でも下でも構いません。読み取り範囲内に納まっていれば、横向きでも構いません。原稿が白紙や文字が小さすぎたりしてうまく読み取れない場合、本機は原稿を読み取ろうとしますが、読み取りに時間がかかり、最終的に『読み取り文書が見つかりません。』とアナウンスします。原稿の読み取りに時間がかかったり、うまく読み取れなかったりする場合は、原稿の裏表や向きを変えて読み取らせてみてください。

それでもうまく読み取れない場合は、本体に同梱されている性能確認用サンプルを読み取らせて、本機が正しく動作しているかを確認してください。性能確認用サンプルの読み取らせ方については、44 ページをご参照ください。

3.4. 電源を入れる。

本体の右側面にある電源ボタンを押して、本体の電源を入れます。電源を入れると、電源表示灯が点灯し、ブープ音が1分程度断続的に鳴り、その後メロディーと音声の流れ、使用可能な状態になります。

3.5. 原稿を読み取り、再生する。

スキャンボタンを押すとコン、コンという作動音の後にシャッター音がして、本機は原稿を撮影し、その数秒後に再生を開始します。読み取り中は作動音が鳴り続けます。上手く原稿を読み取れない場合は、原稿の向きを変えて再度、原稿を読み取ってください。原稿が裏向きの場合は正しく読み取れません。原稿を最後まで読み終わると、『読み終わりました。』とアナウンスします。

15 ページおわり。

3.6. 待機モード。

進むボタンと戻るボタンを同時に2秒間押し続けると、待機モードが作動します。待機モードが作動すると、待機モードに入ったことを知らせるメロディーが鳴り、電源表示灯が点滅します。待機モードから本体を起動させるには電源ボタンを押します。待機モードから起動させた場合、ブープ音が鳴って約10秒で本体が起動し使用可能な状態になります。待機モードから起動した場合、本機からブープ音は出ますが、アナウンスは出ません。一時停止の状態です。この場合は停止再生ボタンを押すことで再生が始まります。メニューを開いた状態で待機モードに入った場合は、起動後もメニューが開かれた状態です。進むボタンでメニュー項目を選ぶか、進むボタンと停止再生ボタンを同時に押してメニューを閉じて、停止再生ボタンを押して読み上げを再開してください。バッテリーがフル充電の場合で、待機モードは約40時間継続可能ですが、待機モードが長いほど、起動後に使用できる時間は短くなります。なお、本体の電源が入っている状態で、15分間、何も操作が無ければ、自動的に待機モードに入ります。

また、日本語の音声の『だいですけ』を選択すると、再生中でも15分から30分ほどで待機モードになる場合があります。この状態で待機モードになった場合、次に電源を入れてから、停止再生ボタンを2回押すことで、再生が始まります。長文を再生する場合は、『だいですけ』以外の音声を選択してください。

3.7. 電源を切る。

本体の電源が入っている状態で、電源ボタンを押すと、本体の電源を完全に切ることができます。ボタンを押すとメロディーが鳴り本体が電源を切る準備を始めます。完全に本体の電源が切れると、電源表示灯が消灯します。待機モード中に電源を切る場合は、一

度電源ボタンを押して待機モードから復帰させ、その後再度電源ボタンを押して電源を切ってください。

3.8. 罫線のある原稿をテーブルモードで再生する。

伝票、明細書などの罫線のある原稿を読み上げるために、本機にはテーブルモードがあります。テーブルモードで読み取り再生するには、原稿を読み取るときにスキャンボタンを2秒以上押し続けてください。テーブルモードでは、自動的に列を認識する機能が無効になり、行全体を認識し、罫線を無視して、左から右に読み上げます。ただしテーブルモードは、通常の読み取りモードよりも読み取り精度が下がります。原稿によっては通常のモードで読み取った方が上手く読み取れる場合があります。

なお、テーブルモードを使用する場合は、原稿を読み取らせる際に毎回スキャンボタンを2秒以上押し続ける必要があります。

3.9. 再生を停止する。

再生を停止するには、停止再生ボタンを押します。再度、停止再生ボタンを押すと、再生を再開します。

出荷時の設定音声である『きょうこ』、もしくは『おとや』の場合は、停止した位置から再生しますが、『あやね』『だいすけ』『いちろう』『みづき』『さくら』では停止した位置ではなく、前回再生を始めた位置、もしくは本機が認識した区切りの先頭に戻って再生を再開します。再生位置を調整する場合は、再生後に進むボタンや戻るボタンを使って調整してください。再生位置の調整については、18 ページの 3.12 単語単位で再生する、から、3.15 ページの先頭に移動する、までをご参照ください。

3.10. 音量を調整する。

音量調整ダイヤルを時計回りに回すと、再生音量を大きくすることができます。音量調整ダイヤルを反時計回りに回すと、再生音量を小さくすることができます。ダイヤルは止まるところまで回してください。音量調整ダイヤルから指を離すと、ダイヤルは元の位置に戻ります。ダイヤルを回し切ったままの状態を保持すると、再生音量が段階的に変化します。丁度良い音量になった時に音量調整ダイヤルから指を離すと、音量が固定されダイヤルは元の位置に戻ります。一時停止をしてから音量を調整すると、『もっと大きく』や『もっと小さく』とアナウンスして操作を補助します。再生音量を素早く調整したい場合は、音量調整ダイヤルを回し切ったままの状態を保持すると、連続的に音量が変化します。丁度良い音量になった時に指を離すとダイヤルは元の位置に戻り、音量は固定されます。

3.11. 再生速度を調整する。

再生速度調整ダイヤルを時計回りに回すと、再生速度を速くすることができます。再生速度調整ダイヤルを反時計回りに回すと、再生速度を遅くすることができます。ダイヤルは止まるところまで回してください。再生速度調整ダイヤルから指を離すと、ダイヤルは元の位置に戻ります。出荷時の設定音声である『きょうこ』、もしくは『おとや』の場合は、再生中に再生速度調整ダイヤルを回しきった状態で保持すると、再生速度は徐々に変化します。丁度良い速さで指をダイヤルから離すと、再生速度が固定されます。

音声は『あやね』『だいすけ』『いちろう』『みづき』『さくら』の場合は、速度変更はすぐには変更されず、現在読み上げている文の次の区切りから適用されます。本機では基本的に文を一区切りとみなしますが、原稿によっては文の途中などで区切られたり、いくつかの文を繋げて区切られたりする場合があります。一時停止をしてから再生速度を調整すると、本機は『もっと速く』や『もっと遅く』というアナウン

スを出して操作を補助します。再生速度を素早く調整したい場合は、再生速度調整ダイヤルを回しきった状態で保持すると、大きな調整幅で再生速度が変化します。丁度良い速度になった時に指を離すとダイヤルは元の位置に戻り、再生速度は固定されます。速度をある程度変更してから、それ以上速度が変わらない場合は、最大速度もしくは最低速度になっている可能性があります。最大速度か最低速度かを確認するには、再生を停止してから速度調整ダイヤルを回してください。本機は『最大速度です』もしくは『最低速度です』とアナウンスします。

3.12. 単語単位で再生する。

単語単位で再生するには、停止再生ボタンを押して再生を一時停止します。その後、進むボタンを押すと次の単語を読み上げ、戻るボタンを押すと前の単語を読み上げます。ただし原稿によっては単語を正しく認識しない場合があります。

3.13. 文単位で再生する。

文単位で再生するには、停止再生ボタンを押して再生を一時停止します。その後、進むボタンを2秒以上押し続けると次の文頭に移動して読み上げ、文の終わりで読み上げを停止します。読み上げを続ける場合は、停止再生ボタンを押すと再度文の先頭から読み上げを開始し、文の終わり以降も読み上げを続けます。停止再生ボタンを押して再生を一時停止した後、戻るボタンを2秒以上押し続けると、前の文の文頭に移動して読み上げ、文の終わりで読み上げを停止します。読み上げを続ける場合は前述の操作を行ってください。ただし原稿によっては文単位を正しく認識しない場合があります。

3.14. ページの先頭に移動する。

読み取った文書の始まりに移動するには、戻るボタンと、停止再生ボタンを同時に押します。

3.15. 音声の種類を選ぶ。

お好みの音声の種類を選ぶには、戻るボタンを押しながら、再生速度調整ダイヤルを回します。戻るボタンを押しながら、再生速度調整ダイヤルを回すごとに、音声の種類が選択され、その音声の名前が読み上げられます。音声によっては、停止後の再生位置や再生速度の変更が適用されるタイミングが変わる場合がありますので、その点をご了解いただいた上で音声を変更してください。

日本語以外の言語を設定した場合は、正しい読み上げを行うために、原稿の言語と、再生音声の言語を揃える必要があります。原稿の言語と再生音声の言語が揃っていないと、読み取りに時間がかかる上に、正しく再生されません。

日本語以外の言語の設定方法については、次ページ以降のメニューの操作をご確認のうえ、26 ページの、4.2.6.1 設定メニューでの声の選択、の内容をご参照ください。

4. 本機のメニュー。

この章では本機のメニューについて詳しく説明します。

4.1. メニューの呼び出しと終了。

メニューを呼び出すには、停止再生ボタンと進むボタンを同時に押します。メニューを閉じるには、もう一度、停止再生ボタンと進むボタンを同時に押します。メニューを閉じると『ページ全体表示』、『コラム』、『ライン』など、その時設定されているテキストの表示方法をアナウンスします。そこで停止再生ボタンを押すと、再生が始まります。

なお、メニューの中の下位メニューを開いている場合、停止再生ボタンと進むボタンを同時に押すと、前の階層に戻ります。メニュー内で現在位置が分からなくなった場合は、停止再生ボタンと進むボタンを同時に何度か押すことで、メインメニューを開く前の状態まで戻ることが出来ます。

メニューを開いたまま待機モードにした場合、次回本機を立ち上げた際には、メニューが開かれた状態になります。メニューが開かれたまま本機が起動されると、電源が入っても何もアナウンスされません。また、メニューが開かれているためスキャンボタンを押しても反応がありません。停止再生ボタンを進むボタンを同時に押し、メニューを閉じることでスキャンボタンが有効になります。

4.2. メニューを使う。

本機のメニュー項目は、保存、開く、消去、声の選択、表示、設定、閉じる の7つです。ただし、SD カードなどの記録媒体が挿入されていない場合、保存、開く、消去のメニューはアナウンスされません。

各項目を有効にするには、進むボタンや戻るボタンを使って、該当の項目まで移動します。該当の項目まで移動し、停止再生ボタンを押すと、その項目が実行されます。

4.2.1. 読み取った文書を保存する。

保存を実行すると、読み取った文書の保存ができます。文書を保存するには、記録媒体として、SD カードを本体右側面の SD カード挿入口に挿入するか、もしくは USB メモリースティックを USB 端子に接続しておく必要があります。複数の記録媒体を接続した場合は、読み取った文書は優先的に最後に接続された記録媒体に保存されます。

データの保存中に記録媒体を抜き差しすると、データが正しく保存されませんので、保存中は記録媒体を抜き差ししないでください。

文書を保存するためには、メニューを開いて『保存』まで移動し、停止再生ボタンを押して保存を実行します。記録媒体を接続した状態で原稿を読み取りメニューを開くと保存が選ばれた状態です。原稿を読み取っていない場合は、保存するデータがありませんので、保存は選択できません。

保存を実行し、保存する形式を選択します。選択できる項目は以下の4つです。

- ①ドキュメント。 本機の基本形式のテキスト形式です。
- ②イーパブ。 電子書籍やデイジーと互換性のある形式です。
- ③ドックス。 マイクロソフトワードで編集可能な形式です。
- ④閉じる。 選択項目を閉じます。

保存する形式を決定すると、保存する文書に音声タイトルを付けるかどうかを選択できます。

もし音声タイトルなしで文書を保存する場合は、選択項目で『いいえ』を選択します。その場合、文書は初めの行を文書の名前として使用します。この時、文書の始まりが数字、もしくはアルファベットの

場合、本機は文書の名前を英語として認識し、文書一覧では文書の名前を英語発音でアナウンスします。例えば、665という文書の名前の場合、文書一覧では『シックス、シックス、ファイブ』というようにアナウンスします。

文書の音声タイトルを付けて文書を保存する場合、選択項目で、進むボタンもしくは戻るボタンを押して『はい』まで移動し、停止再生ボタンを押して実行します。そうすると、『5秒以内に音声タイトルを録音してください』というアナウンスがあり、ビープ音が鳴り、5秒間の音声タイトルの録音が始まります。この時、何も録音をせずに本体のボタン操作を行うと、プログラムが誤作動し本体がフリーズしたりする可能性がありますので、録音中が完了するまでは本体の操作は行わないでください。5秒経過すると自動的に、『保存中です、しばらくお待ちください』というアナウンスがあり、ビープ音が鳴ります。ビープ音が鳴り終わると、読み取った文書は音声タイトルが付いた状態で保存されます。

本機のマイクは感度があまり良くありません。マイクから離れた状態で録音すると、録音音量がものすごく小さくなるため、タイトルを録音する場合は本体のスキャンボタンの近くに顔を寄せた状態で大きな声で録音してください。

読み取った文書が保存されると、『保存した形式、録音されたタイトル音声』が流れ、その後に『保存されました』とアナウンスされます。次のページを追加するかどうかを選択できます。選択項目で『いいえ』を選択するとメニューを閉じ、再度、文書を表示します。選択項目で『はい』を選択すると、スキャンボタンを押すことでページの追加が可能になります。ページの追加を終了するには、停止再生ボタンを押します。

複数ページを保存する場合は、保存する形式(ドキュメント、イーパブ、ドックス)によってその後のアナウンスが変わります。ドキュメ

ントの場合、2 ページ目、3 ページ目と追加していきます。ページを追加する毎に、『追加を止めるにはメニューボタンを押してください』というアナウンスが出るので、追加を終了したいときは、停止再生ボタンを押してください。停止再生ボタンを押すと、『作業を続けますか。この作業には数分かかる場合があります。』というアナウンスが流れます。ここで『はい』を選択すると、読み取ったページの保存が開始されます。保存中は『XX ページを読み込み中です、総ページ XXX ページ。』というアナウンスが流れ、作動音が流れます。文字数にもよりますが、1 ページの読み込みには1分から2分程度かかります。『作業を続けますか？』で『いいえ』を選択すると保存を選択する前の状態に戻ります。この時読み取って保存しようとしていたデータ自体は設定した記憶媒体に保存されていますが、ページ数などが正しく設定できていません。複数ページを保存する場合は、『作業を続けますか？』という場面で、必ず『はい』を選択して保存を完了させてください。保存が完了されていない状態のデータを開こうとすると、その場で作業の継続を求めるメッセージが出ますので、その時に作業を完了させることも可能です。

イーパブとドックスで複数ページを保存する場合は、追加を終了するために停止再生ボタンを押した時点で読み取ったページの保存が開始されます。

4.2.2. 保存した文書を開く。

保存した文書を開くには、メニューを開き、進むボタンを押して、メニュー項目の『開く』に移動します。停止再生ボタンを押すと、下位メニューとして、ドキュメントか写真のどちらの形式で文書を開くかの選択がアナウンスされます。この時、写真の表示はモニタを接続した時のみ有効で、音声で読み上げられないため、モニタ接続をしていない場合は選択しても確認できません。写真の表示については、35 ページの 7.4.1『開く』をご参照ください。保存した文書を開くには、ドキュメントを選択し、停止再生ボタンを押します。保存されている

文書の一覧が表示されますので、進むボタンもしくは戻るボタンを押して、開きたい文書まで移動し、停止再生ボタンを押します。メニューが閉じられ文書が開きます。前回に再生途中で終了した文書を再度開いた場合は、前回の読み終わり位置から再生が始まります。

データを開いている間に記録媒体を抜き差しすると、データが正しく再生されない場合がありますので、データを開いている間は記録媒体を抜き差ししないでください。

4.2.3. 保存した文書を消去する。

保存した文書を消去するためには、メニューを開き、進むボタンを押して、メニュー項目の『消去』に移動します。停止再生ボタンを押すと、『消去メニューを開きます』というアナウンスがでて、保存されている文書の一覧が表示されます。進むボタンもしくは戻るボタンを押して、削除したい文書まで移動し、停止再生ボタンを押します。メニューが閉じられ『本当に消去してよろしいですか？ファイル名、いいえ』というアナウンスが流れます。『いいえ』が選択されている状態のまま停止再生ボタンを押すと、文書の一覧に戻ります。文書を消去する場合は、進むボタンもしくは戻るボタンで『はい』を選択して、停止再生ボタンを押してください。『ドキュメントを消去しています』というアナウンスがあり、文書を消去します。消去が完了すると、『ドキュメントを消去しました』というアナウンスがあり、文書の一覧に戻ります。

なお、現在再生中の文書を消去しようとする、と、『この文書は消去できません』というアナウンスが出て、消去できません。現在再生中の文書を消去する場合は、一旦、別の文書を読み取るか、別の文書を開くか、電源を立ち上げなおすかをおこなった後に文書の消去を実行してください。

データの削除中に記録媒体を抜き差しすると、記録媒体の他のデータにも影響する場合がありますので、データの削除中は記録媒体を抜き差ししないでください。

4.2.4. 声の選択。

声の選択メニューでは、読み上げる音声を変更することができます。初期設定で選択できる日本語の音声の種類は、『日本語 きょうこ』、『日本語 おとや』の2種類です。音声の種類を増やすには、設定メニューの声の選択で、音声の種類を設定する必要があります。設定メニューの声の選択については、26 ページの、4の2の6の1、設定メニューでの声の選択、をご参照ください。音声を変更するには、メニューを開き、進むボタンを押して、メニュー項目の『声の選択』に移動します。停止再生ボタンを押すと『声の変更、日本語、おとや、選択しました。』というように、声の種類が選択されたことをアナウンスします。次の音声の種類に移動する場合は、停止再生ボタンを押します。気に入った音声が見つかるまでこの停止再生ボタンを繰り返し押してください。気に入った音声が出た時点で操作をやめて待機すると、『選択しました』というアナウンスがあり、読み上げ音声を変更されます。気に入った音声を通り過ぎってしまった場合は、再度停止再生ボタンを何度か押して、お気に入りの音声まで移動してください。音声を決定したら、進むボタン、戻るボタンで別の項目に移動するか、停止再生ボタンと進むボタンを同時に押してメニューを閉じてください。

4.2.5. モニタを接続しない場合の表示。

モニタを接続していない場合は、ボタンを押して表示の設定を変更しても特に意味はありません。モニタを接続して表示を変更する方法については、33 ページの7. モニタを接続して使用する、以降をご参照ください。

4.2.6. 設定。

本機の設定メニューには、声の選択、オプション、解像度、初期設定、インフォメーション、閉じるの6種類の項目があります。設定メニューに入って進むボタンを押して各項目に移動します。

次の説明項目、4.2.6.1.設定メニューでの声の選択から、4.2.6.5.インフォメーションは、設定メニューの中で下位メニューとして表示されるメニューです。

下位メニューから上位メニューに戻る場合は、進む、戻るボタンで選択項目の『閉じる』を選択し、停止再生ボタンで決定してください。もしくは戻るボタンと停止再生ボタンを同時に押すことで前の階層に戻ることもできます。

4.2.6.1. 設定メニューでの声の選択。

本機で使用する言語と音声の種類を選択できます。ただし、むやみに言語を増やすと音声の変更の際に選択肢が増えるために、誤操作の原因にもなり得ます。間違った言語が選択されてしまうと、ガイド言語も変わってしまうため、操作が分からなくなってしまうたりする可能性があるため、日本語以外の言語は必要でない限りは設定しないことをお勧めします。

本機で選択できる言語と音声の種類は以下の通りです。

英語。 アメリカンイングリッシュ サマンサ、アメリカンイングリッシュ トム の2種類。

日本語。 日本語 あやね、日本語 だいすけ、日本語 いちろう、日本語 みずき、日本語 さくら、日本語 きょうこ、日本語 おとや の7種類。

韓国語。 韓国語 ユナ、韓国語 ソラの2種類。

中国語。 中国語 ビンビン、台湾中国語 メイジャ、中国語 リーリー、中国語 ティエンティエン、上海中国語 シンギ の5種類。

言語と音声の設定を変更する場合は、声の選択メニューで停止再生ボタンを押してメニューに入り、進むボタンを押して設定を変更したい言語まで移動し、もう一度、停止再生ボタンを押します。そうすると『声の選択』というアナウンスが流れ、音声の種類が示されるので、進むボタンを押して追加、または削除したい音声の種類まで移動して、停止再生ボタンを押します。音声の種類がアナウンスされ、選択しました、もしくは選択されていません、というアナウンスがあります。設定したいもしくは設定を解除したい場合は、もう一度、停止再生ボタンを押すことで設定、設定解除ができます。

4.2.6.2. オプション。

文字認識レベルの調整が出来ます。『速い』、もしくは、『通常』、のいずれかを設定でき、初期設定は通常設定です。通常設定では読み取る原稿に合わせて本機が最適な認識レベルを自動調整します。早い設定では通常よりも 30 パーセント認識速度が速くなりますが、複雑な文字や段組みの認識レベルが下がります。小説などのように、表や写真などのない、文字だけの原稿の認識にお勧めです。

4.2.6.3. 解像度。

このメニューはモニタを接続してから使用しますので、33 ページの 7. モニタを接続して使用する、以降で説明します。モニタを接続していない場合は、ボタンを押して設定の変更をしても特に意味はありません。

なお、モニタを接続していなくても解像度の設定を変更した場合は、一度本機を再起動させる必要があります。

4.2.6.4. 初期設定。

本機を出荷時の設定に戻します。このメニューを選択すると、『初期設定。出荷時の設定に戻してよろしいですか?』とアナウンスがあります。出荷時の設定に戻す場合は、進むボタンを押して『はい』を、出荷時の設定に戻さない場合は『いいえ』を選択し、停止再生ボタンを押してください。

初期設定に戻す操作を行うことで出荷時の設定に戻るのは、読み上げ速度、音量、背景色と文字色、ハイライト、文字サイズ、フォント、文字認識レベルです。言語や音声の種類、表示モード、解像度は初期設定を行っても初期設定に戻す操作をする前の状態から変更されません。

なお、各項目の初期設定の状態は以下の通りです。言語は日本語のみ。音声の種類はキョウコ。選択可能な音声の種類は『きょうこ』と『おとや』。モニタ接続時の色は背景色が白で文字色は黒。表示モードはページ全体表示(ハイコントラスト)。ハイライトは赤色の線で囲む。文字サイズは96。フォントはエリアル。文字認識レベルは通常。解像度は自動。

4.2.6.5. インフォメーション。

本機のアプリケーション、カメラインターフェイス、オーシーアールインターフェイス、周波数のバージョンが確認出来ます。

5. パソコンで作成したデータの再生方法。

この章ではパソコンで作成したデータを本機で再生する方法について説明します。

5.1. パソコンで作成したデータを記録媒体に入れる。

本機では、パソコンで作成し SD カードや USB メモリに保存されたテキストデータを読み上げることも出来ます。その場合は、パソコンで作成したテキストデータの文字コードを『Unicode』もしくは、『UTF-8』に設定しておく必要があります。また、テキスト文書の最後に改行し、『おわり』と入力する必要があります。改行し、『おわり』と入力していない場合、テキスト文書の最後の文を正しく読み上げません。また、最後に入力した『おわり』は本機では読み上げられません。

パソコンで作成したデータを SD カードや USB メモリに保存する場合、記録媒体の最上位の階層に保存してください。任意のフォルダを作成してその中に保存した場合は、本機では認識されません。

インターネット上のテキストデータを SD カード等に保存して本機で読み上げさせる場合は、保存したデータの文字コードが『ANSI』になっている可能性があります。文字コードが『ANSI』の場合は本機では正しく読み上げられません。その場合は一旦パソコン上でデータを開いて、名前を付けて保存を開き、文字コードを『Unicode』もしくは、『UTF-8』に変更してから保存してください。この時、同じファイル名のデータが既に存在しているアラートが出ますが、そのまま上書き保存してください。

5.2. パソコンで作成したデータを再生する。

パソコンから記録媒体に保存したデータは、本機のメインメニュー内の『開く』でドキュメントを選択した際に、タイトルとして選択できるようになります。

メインメニュー内の『開く』を選択した際に、ドキュメントではなく写真を選択すると、パソコンで作成したデータには写真データが無いため、無理に写真を再生しようとするとう本機はフリーズします。間違った操作により本機がフリーズした場合は、電源を入れなおすとまた操作できるようになります。

ドキュメントを選択して、再生したいデータまで移動し、停止再生ボタンを押すと、データの読み上げが始まります。

ただし、モニタを接続した際には、パソコンで作成したデータは読み上げと画像が連動して動きません。

6. 充電とバッテリー残量。

この章では本機のバッテリーの残量確認と、充電方法について詳しく説明します。

6.1. バッテリー残量の確認。

進むボタンと戻るボタンを同時に押すと、バッテリー残量を確認出来ます。バッテリーがフル充電の場合は、『バッテリーは満充電です。』とアナウンスします。フル充電を 100 パーセントとして、現在の残量が何パーセントなのかを音声でお知らせします。例えばバッテリー残量が 80 パーセントの場合、『充電 80 パーセントです』とアナウンスします。充電中は『充電中です。』とアナウンスします。バッテリー残量が少なくなりましたら、ACアダプタを接続して充電してください。電源が入っている状態でACアダプタを接続すると、『充電器が接続されています』とアナウンスします。電源が入っている状態でACアダプタの接続を解除すると、『充電器の接続が解除されました。』とアナウンスします。文書の再生中にバッテリー残量が 5 パーセントを切ると、『充電 5 パーセントです。』とアナウンスします。アナウンスがありましたら充電してください。電源が入っている状態で本機の操作に必要な充電が不足すると、『充電が不足しています。残り 3 パーセントです。』というアナウンスがあり、本機は自動的に電源が切れます。その後は充電器を接続して使用するか、十分に充電してから使用してください。充電不足で電源が切れた場合、保存されていないデータは消えますのでご注意ください。また充電が少なくなると誤動作が起こる可能性がありますので、充電が少なくなりましたら、充電して使用してください。また、待機モードで充電が不足した場合は、特にお知らせすることなく電源が切れます。長期間使わない場合は、必要なデータを保存した上で電源を切るようにしてください。

6.2. バッテリーの充電方法。

バッテリーを充電する際は、ACアダプタに電源ケーブルを接続し、本体背面にある充電器差し込み口に、ACアダプタの先を接続し、電源ケーブルの先をご家庭のコンセントに接続して充電してください。約3時間充電するとバッテリーがフル充電になります。バッテリーがフル充電の場合に、約5時間連続使用可能です。また、本機を安全にご利用いただくために、充電の際には必ず専用のACアダプタと電源ケーブルをご使用ください。

6.3. バッテリーを長持ちさせるために。

バッテリーを最大限に長くご利用いただくために、最低でも月に一回は本機のバッテリー残量がゼロになるまで完全放電してから満充電になるまで充電してください。

6.4. バッテリーの交換について。

バッテリーの連続使用可能時間が短くなり、バッテリーの交換が必要な場合は、47 ページに記載されているお問い合わせ窓口まで連絡ください。バッテリー交換の際は本機をサービス窓口へ送っていただく必要があります。お客様ご自身での交換は出来ません。また、交換したバッテリーはサービス窓口で廃棄いたしますので、古いバッテリーをお客様にお戻しすることは出来ません。

なお、バッテリーの連続使用可能時間が短くなっても、ACアダプタを接続して使用することは可能です。

7. モニタを接続して使用する。

この章では本機をモニタに接続して使用する場合について詳しく説明します。モニタを接続する際は、HDMI ケーブルで本機とモニタを接続してから本機の電源を入れてください。電源を入れてからモニタを接続すると、正常に表示されない場合があります。

なお、本機のセットであるコンプリートセットをご購入いただいた場合は、HDMI ケーブルとモニタがセットになっていますが、本体のみでご購入いただいた場合は HDMI ケーブルやモニタは付属していません。

また、ここからの説明はモニタを接続して画面表示していることを前提にした説明です。

7.1. 本体裏面のカバーを外す。

本機をモニタに接続するためには、本体裏面の充電器差込部分に付いているカバーを外す必要があります。本体裏面の一番下の AC アダプタ差込端子部分が四角く囲まれています。その中央部分の本体の底面側に、丸く凹んだ部分があり、そこにネジが止まっています。カバーを外すにはこのネジを外す必要があります。

ネジを外すには、まず本体を裏面が上になるように、机などの平らな台の上においてください。プラスドライバーを使用して、ネジを反時計回りに回してください。外したネジは無くさないように保管してください。

ネジを外したら、カバーを外しますが、この時 AC アダプタ差込部分の穴に指をかけて、本体裏面側にカバーをずらすと外しやすいです。

カバーを外した後に、先ほど外したネジを本体に止めておくとネジの紛失を防ぐことができます。ネジを止めるには、プラスドライバーを使用して、ネジを時計回りに回してください。

7.2. 本体裏面のカバーの中の構造。

本体裏面のカバーを外すと、本体裏面に向かって左から順に、ACアダプタ差込端子、HDMI 端子、USB 端子が横並びに2か所、その下にコンパクトフラッシュカードの挿入口があります。コンパクトフラッシュカードの挿入口には既にコンパクトフラッシュカードが入っています。コンパクトフラッシュカードには本機を起動するためのソフトが入っているので、絶対に抜かないでください。

7.3. HDMI ケーブルで本機とモニタを接続する。

本体裏面のカバーの中の HDMI 端子に HDMI ケーブルを接続してください。もう片方の先をモニタに接続してください。HDMI 端子には上下がありますので、差込の際には上下を間違わないようにご注意ください。後は通常の本機の使用方法と同じ使い方で活字を読み取ると、モニタに活字が表示され、読み上げに合わせて画面が動きます。

ただし、読み上げと画面が連動するのは、日本語では『きょうこ』と『おとや』のみです。他の音声は読み上げと画面は連動しませんので予めご了承ください。

7.4. モニタ接続時のみに有効なメニュー。

ここではモニタ接続時に使用するメニューについて説明します。メニューを表示させるには、進むボタンと停止再生ボタンを同時に押します。メニューを開くと画面にメニューアイコンが表示されます。メインメニューの中の、開く、表示、および、設定メニューの中の解像度については、モニタ接続時のみに有効なメニューですので、以下でそれぞれの操作について説明します。

7.4.1. 開く。

モニタ接続時には、本機で撮影した写真データの他、記録媒体内に入っている写真データを画面に表示できます。写真を表示するには、メニューを開き、進むボタンを押して、メインメニュー項目の『開く』に移動します。停止再生ボタンを押すと、下位メニューとして、ドキュメントか写真のどちらを開くかの選択画面が表示されます。進むボタンもしくは戻るボタンで、ドキュメントか写真かを選び、停止再生ボタンを押します。ドキュメント、写真のいずれを選択した場合も、『ドキュメントを開きます』というアナウンスがあり、ファイル一覧が表示されます。写真を選んだ場合、ファイル一覧では記録媒体内の画像ファイル名もしくはフォルダ名が一覧として表示されます。

本機で読み取った画像は、文書の最初の行をフォルダ名としたフォルダに格納されています。フォルダの中には、読み取った画像を左に90度回転した org.jpg ファイル、白黒に変換された bmp ファイル、正しい向きに修正された jpg ファイルの3つの画像ファイルが作成されています。いずれかの画像ファイルを選択し停止再生ボタンを押すと、『写真を表示します』というアナウンスが出て画像が表示されます。画像が表示された時点で進むボタンを押すと、『次の写真へ』というアナウンスが出て、同じフォルダ内の次の画像が表示されます。それ以上画像が無い場合は、『最後の写真です』というアナウンスが出ます。戻るボタンを押すと『前の写真へ』というアナウンスが出て前の画像が表示されます。それ以上戻る画像が無い場合は、『最初の写真です』というアナウンスが出ます。画像表示中に再生停止ボタンを押すと、『スライドショーを開始します』というアナウンスが出て、フォルダ内の画像がスライドショーで表示されます。スライドショーとは、画像が自動で順番に切り替わり表示される表示方式です。スライドショーを終了するには停止再生ボタンを押します。『スライドショーを停止します』とアナウンスが出て、スライドショーが終了されます。スライドショーが起動している間は、画像は循環して表示されます。

画像を閉じてファイル一覧に戻る場合は、進むボタンと停止再生ボタンを同時に押します。

パソコンから記録媒体に直接保存した、フォルダに入っていない画像ファイルを開いた場合、画像が表示された時点で進むボタンを押すと、記録媒体内でフォルダに入っていない次の画像が表示されます。戻るボタンを押すと、前の画像が表示されます。再生停止ボタンを押すと、記録媒体内でフォルダに入っていない画像がスライドショーで表示されます。スライドショーを終了するには停止再生ボタンを押します。

フォルダに入っていない写真の表示を終了する場合に、進むボタンと戻るボタンを同時に押すと、ドキュメントと写真の選択画面に戻ります。この時本機からは何もアナウンスができませんが故障ではありませんので、予めご承知ください。

7.4.2. モニタを接続した場合の表示。

メニューを開いて進むボタンを押し表示まで移動します。表示まで移動して停止再生ボタンを押すと、表示のサンプル画像と表示メニューの中のアイコンが表示されます。表示メニューではモニタに表示される文字の色や表示モード、ハイライトの種類が選択できます。ハイライトとは、現在読んでいる個所が分かりやすいように、読んでいる部分の色を反転させたり、線で囲んだりして目立たせる機能です。それぞれの詳細な説明は以下で説明します。

7.4.2.1. 背景色と文字色の組み合わせを変更する。

表示メニューを開くと、『色』というアイコンが選択されています。背景色と文字色の組み合わせを変更する場合は、ここで停止再生ボタンを押します。そうすると『黄色背景に黒文字』のように、背景色と文字色をアナウンスし、画面上のサンプル表示の背景色と文字色が変わります。背景色と文字色の組み合わせは、黒背景に黄色文

字、黄色背景に青文字、青背景に黄色文字、黒背景に赤文字、赤背景に黒文字、黒背景に緑文字、緑背景に黒文字、黒背景に紫文字、紫背景に黒文字、青背景に白文字、白背景に青文字、黒背景に琥珀文字、琥珀背景に黒文字、黒背景に白文字、白背景に黒文字、黄色背景に黒文字の16種類です。

背景色と文字色の組み合わせを決めたら、進むボタンを押して次のメニューに進むか、進むボタンを何度か押して閉じるに移動して停止再生ボタンを押してメニューを閉じてください。

7.4.2.2. 表示モードを変更する。

表示モードでは読み込んだ文書を画面にどのように表示するかを変更できます。選択できる表示モードは、ページハイコントラストオン、ページハイコントラストオフ、コラム、ラインの4種類です。ページハイコントラストオンは読み込んだ画像の文字と背景色が反転したモードです。ページハイコントラストオフは読み込んだ画像をそのまま表示するモードです。コラムは標準的な表示モードで、読み込んだ画像をテキストデータにして、一定の文字の塊で表示するモードです。ラインは読み取った画像をテキストデータにして、一行で表示するモードです。ライン表示を選択した場合、画面の中央に一行でテキストが表示され、文字は画面の右から左に動きます。この時、ライン表示されている部分の上下は何も表示されず黒くなります。表示メニューを開いて、進むボタンを押すと、表示モードのアイコンに移動します。表示モードのアイコンに移動して停止再生ボタンを押すと、ボタンを押すごとに表示モードが切り替わります。選択されているモードは画面上のサンプル画像で確認できます。

7.4.2.3. ハイライトを変更する。

ハイライトでは、現在読んでいる部分の表示方法を変更できます。選択できるハイライトの種類は、下線を引く、赤色の下線を引く、黄色の下線を引く、ハイライト無し、文字と背景の色を反転させる、線で囲む、赤色の線で囲む、黄色の線で囲む、の8種類です。ただし、表示モードがページの場合、ハイコントラストのオンオフに関わらず、『文字と背景の色を反転させる』を選択しても、ハイライトは線で囲まれる表示になります。また、『下線を引く』、『赤色の下線を引く』、『黄色の下線を引く』については、ラインモードでは読み上げている部分の文字に下線がひかれますが、その他のモードでは、読み上げている部分が含まれている行全体が線で囲まれます。

7.4.3. モニタの解像度と本機の解像度を合わせる。

本機をモニタに接続しても正常に画像が表示されない場合に、手でモニタの解像度と本機の解像度を合わせることができるようになっています。選択できる解像度は、自動、800×600、1024×768、1280×1024、1366×768、1680×1050、1920×1080、の7種類の内、接続されているモニタで選択できる解像度が表示されます。通常本機は自動で最適な解像度を判別するように、自動が選択されています。設定を変更すると、画像が小さくなったり、画質が悪くなったり、正常に映らなくなったりする可能性もありますので、むやみに解像度を変更しないでください。

解像度を変更した場合、変更を有効にするために本機を再起動する必要があります。

8. フィーチャーパックを接続して使用する。

この章ではフィーチャーパックを接続して使用する場合について説明します。フィーチャーパックは縦約7センチメートル、横約20センチメートル、厚み約1.7センチメートルの大きさ、重量約200gの本機専用の機能拡張用コントローラーです。USB接続で本機に接続して使用します。本体側のどのUSB端子に接続しても使用出来ます。ケーブルの長さは約1.26メートルです。

フィーチャーパックは通常本機とモニタを接続した上で使用するコントローラーですので、本説明書でもモニタを接続していることを前提で説明します。

8.1. フィーチャーパックのボタン説明。

フィーチャーパックはケーブルが出ている方を奥にして、横長の状態で使用します。フィーチャーパックには右から順番に、弓なりの右矢印ボタンがあり、そこから約3センチメートル内側のすこし上側に四角いメニューボタンがあります。メニューボタンの左下には、中心に停止再生ボタンがあり、それを囲むように上下に、上矢印ボタン、下矢印ボタンがあります。上方向ボタンの左上側には、四角いモードボタンがあります。モードボタンから約3センチメートル左側に、弓なりの左矢印ボタンがあります。

以下では各ボタンの機能を説明します。

停止再生ボタン。

コントローラーの中央にある丸いボタンで、ボタンを押すと読み上げを一時停止したり、再開したりします。一時停止中にボタンを2秒以上押し続けると、停止位置の単語を読み上げます。メニューを開いた際には、項目の選択や決定ボタンとしても機能します。

右矢印ボタン。

一時停止中にボタンを押すと、次の単語を読み上げます。

メニューを開いた際には、次のメニュー項目に移動するためにも使用します。読み上げ中にボタンを押すと読み上げ速度が速くなります。ボタンを押し続けると読み上げ速度が連続して速くなります。丁度良い速さでボタンから指を離すと、その速さが設定されます。

左矢印ボタン。

一時停止中にボタンを押すと、前の単語を読み上げます。

メニューを開いた際には、前のメニュー項目に移動するためにも使用します。読み上げ中にボタンを押すと読み上げ速度が遅くなります。ボタンを押し続けると読み上げ速度が連続して遅くなります。丁度良い速さでボタンから指を離すと、その速さが設定されます。

上矢印ボタン。

ボタンを押すごとに、現在読み上げている行から一つ上の行に移動します。メニューを開いた際には、前のメニュー項目に移動するためにも使用します。読み上げ中もしくは一時停止中にボタンを2秒以上押し続けると、連続して前の行に移動します。

下矢印ボタン。

ボタンを押すごとに、現在読み上げている行から一つ下の行に移動します。メニューを開いた際には、次のメニュー項目に移動するためにも使用します。読み上げ中もしくは一時停止中にボタンを2秒以上押し続けると、連続して次の行に移動します。

42 ページ。

メニューボタン。

ボタンを押すとメニューが開きます。再度ボタンを押すとメニューを閉じます。下位メニューからメインメニューに戻る際にも使用します。

表示モードボタン。

ボタンを押すごとに、画面の表示モードを変更できます。選択できる表示モードは、ページ全体表示、ページ全体表示拡大版、コラム、ラインの4種類です。

8.2. フィーチャーパックで拡張される機能。

フィーチャーパックを接続してメニューを開くと、メニュー内に『文字サイズ』と、『フォント』という項目が増えています。文字サイズに移動して停止再生ボタンを押すと、ボタンを押すごとに文字サイズを変更できます。変更できるサイズは、20、28、36、48、72、96、120、160、200、240の10段階です。

文字サイズの初期設定は96です。文字サイズを48以下に設定すると、再生中の操作に対する反応が著しく遅くなったり、悪くなったりする場合があります。文字サイズを変更する場合は、72以上に設定することをお勧めします。

また、メニューでフォントに移動して停止再生ボタンを押すと、ボタンを押すごとにフォントを変更できます。選択できるフォントの種類は、バーダナ、バーダナボールド、エリアル、エリアルボールドの4種類です。ボールドは太字のことです。

その他、表示モードのページハイコントラストオンが、ページ全体表示拡大版になります。フィーチャーパックではコントローラーに表示モードボタンがあるため、表示モードボタンを押すごとに表示モードを変更できます。変更できる表示モードは、ページ全体表示、ページ全体表示拡大版、コラム、ラインの4種類です。

42 ページおわり。

9. 故障かなと思ったら…。

まず以下をご確認いただき、それでも解決しない場合は、47 ページに記載されているお問い合わせ窓口まで連絡ください。

本機が充電できない場合。

一度本機と AC アダプタ、AC アダプタと電源ケーブルの接続を解除して、再度接続し直してください。それでも改善しない場合、ご家庭の別のコンセントで充電してみてください。

本機が起動しない場合。

充電がなくなっている可能性があります。充電してください。

理解できない言語で読み上げる場合。

設定されている読み上げ言語が正しくない可能性があります。戻るボタンを押しながら速度調整ダイヤルを回して、ご自身が使う言語に設定してください。何らかの理由でご自身が使う言語の選択を外してしまっている場合は、26 ページの 4.2.6.1 設定メニューでの声の選択を確認して、再度言語選択し直してください。初期設定は言語選択には適用されませんので、初期設定を行っても言語は変わりません。

原稿の認識にかなり時間がかかる場合。

原稿に使用されている言語と、本機の読み上げ言語とが一致しているか確認してください。その上で性能確認用サンプルを読み取らせて正しく読むか確認してください。性能確認用サンプルの読み取らせ方については、44 ページをご参照ください。

44 ページ。

文章の塊や表などを丸々認識しない場合。

再度原稿を設置しなおして、読み込んでください。表を上手く認識しない場合は、読み込みの際にスキャンボタンを2秒以上押し続けて、テーブルモードで読み込んでください。それでも正しく認識しない場合は、性能確認用サンプルを読み取らせて正しく読むか確認してください。性能確認用サンプルの読み取らせ方については、44 ページをご参照ください。

スキャンボタンを押しても反応しない場合。

まずは電源が入っているかを確認してください。電源が入らない場合は本機を充電してください。充電状態で電源を入れ、カメラを上げた状態で再度スキャンしてください。

それでも反応がない場合は、メニューが開いた状態になっている可能性があります。メニューが開かれているかどうかを確認するには、電源が入った状態で進むボタンか戻るボタンを押してください。その際にメニュー項目をアナウンスする場合はメニューが開かれています。進むボタンと停止再生ボタンを同時に押して、メニューを閉じてください。

充電して電源を入れてもスキャンボタンが反応しない場合は、お手数ですが47 ページに記載されているお問い合わせ窓口まで連絡ください。

どのボタンを押しても反応しない場合。

本機の立ち上げ時に電源ボタンを押しても反応しない場合は、充電してから再度電源ボタンを押してみてください。

操作中にどのボタンをおしても反応しない場合は、一度電源を切って、30秒ほどお待ちいただき、再度電源を入れてください。この時、電源ボタンを押しても反応しない場合は、充電した状態で再度電源ボタンを押して電源を入れてみてください。

44 ページおわり。

正常に読上げないので、性能確認用サンプルで動作を確認したい場合。

性能確認用サンプルを本機で読み取ってください。この時読み取るサンプルの周囲に印刷物やテーブルクロスの様相などが入らないようにしてください。

また、テーブルの端で読み取らせると、テーブルの周囲の様相や物体を認識して上手く読み取らない場合があるため、出来るだけテーブルの中央で読み取らせてください。

性能確認用サンプルをスキャンしてもうまく読上げない場合は、以下をお試してください。

1. サンプルがうら面の可能性があるので、サンプルを裏返して読み取らせてください。
2. サンプルの上下の向きを変えて読ませてみてください。
3. サンプルの下や周囲10センチメートルほどの範囲に、印刷物やレースの様相やテーブルの様相などが無い場所で読み取らせてください。
4. サンプルを読み取らせる場所が机や台の端でないことを確認し、再度読み取らせてください。
5. 一度電源を切って、再度電源を入れ直したうえで、読ませてみてください。

10. 安全にご利用いただくために。

本機を持ち運ぶ際は、折り畳み式ハンドルを持って慎重に取り扱ってください。手荒に扱われ、ぶついたり振り回したりしますと、内部損傷が起こる可能性があります。

本機を分解、改造しないでください。火災や感電などの事故の原因となります。点検や修理は必ずご購入頂きました販売店または 47 ページに記載されている、お問い合わせ窓口にご依頼ください。

本機の破損、火災や事故の原因となる可能性があるため、ご自身で本機からバッテリーを外さないでください。

本機を高温な場所・直射日光のあたる場所・火気のある場所に置かないでください。

本機を医療機器の近くで使用しないでください。

電氣的故障を避けるため、化学物質の近くで使用しないでください

本機を清掃する際は、必ず電源を抜いて、柔らかい布で外側を拭いてください。研磨剤や薬品を使つての清掃は故障の原因になりますので、研磨剤や薬品は使用しないでください。

違う種類のコードでの充電はバッテリーの破損の原因になります。充電の際は必ず専用の充電器で充電してください。

本機を廃棄される場合は、お住いの自治体の分別指示に従って処分してください。

万が一、異常が起きた場合、電源スイッチを切り、電源ケーブルをコンセントから抜き、ご購入いただいた販売店または 47 ページに記載されている、お問い合わせ窓口までご連絡ください。

47 ページ。

11. 仕様情報。

サイズ:カメラアームを閉じた状態で、

幅 24 センチメートル、高さ 23 センチメートル、奥行10センチメートル。

カメラを上げた状態での奥行 27 センチメートル。

カメラを上げた状態での高さ 26 センチメートル。

ハンドルを上げた状態での高さ 27 センチメートル。

重さ:約 2.5 キログラム。

カメラ:13 メガピクセルカメラ。

外部インターフェース:3.5 ミリメートルステレオジャック、

SD カードスロット、USB ポート。

(USB ポートは右側面 1 か所、裏面 2 か所。)

バッテリー:リチウムイオンバッテリー。

充電時間:約 3 時間。

連続使用時間:約 5 時間。

動作環境。

湿度:非結露状態で70%以下。

温度:0度から40度。

保管、輸送環境。

湿度:非結露状態で95パーセント以下。

温度:マイナス20度から60度。

47 ページおわり。

48 ページ。

12. お問い合わせ窓口。

株式会社システムギアビジョン お客様相談窓口。

フリーダイヤル:0120960807。

受付は平日の9時から17時半まで。

午後12時から1時までは昼休み。

土曜、日曜、祝日は休み。

年末年始は12月29日から1月4日まで休み。

システムギアビジョンの住所：

郵便番号665の0051。

兵庫県宝塚市高司1丁目 6 番 11 号。

49 ページ。

49 ページおわり。